

税に支えられた学校生活

西中学校 3年 北村 佳奈

私たち日本人の子供達は、毎日あたり前のように学校へ通い、教科書を使って勉強し、校庭や体育館でスポーツや各行事を行っている。また部活動においても、当然の権利のようにグラウンドや体育館などを使い活動している。それも時には嫌々ながら・・・普段特にそれを恵まれていると感じることはなく、そうさせてもらっているという感覚など皆無である。それどころか、嫌なことがあったりすると「今日は学校休みならいいのになあ」などと思ってしまうことさえある。

一方世界に目をやれば、読み書きや計算ができない人たちが、いまだに何億人もいるという。そういった国の人たちは、子どものときからお金を稼ぐために働かなければならなかったり、戦争や貧しさのために学校に行けないまま、大人になってしまっているのである。

私は小6のときユネスコの活動について詳しく調べたことがあり、このことを知った。そして、私たち日本人は恵まれ過ぎているといえるのではないかと感じ、あたり前のことがあたり前にできる幸せを、噛み締めてみる必要があるのではないかと思った記憶がある。

中学生になり税の事を色々と勉強してきた中で、私達の学校生活についてあらためて調べ、考えてみた。

まず勉強になくてはならない校舎や教科書・机・椅子など。これらにかかるお金は、私達や私達の親が出しているものではない。また、教えてくださっている先生方の給料もそうだ。これらは全て税金からまかなわれているのである。

次に部活動ではどうだろうか。校庭や体育館を造ったり整備したりする費用や楽器の購入、試合で着るユニフォームなど。これらもお金の出所は税金だ。

さらに、私達が通学で通っている道路の建設や整備など、あらゆるものに税金は使われているのである。

税は、言うまでもなく国民全員が負担するものである。そうすると、私達が安心して毎日学校に通い、勉強し部活動に励み、学校生活をエンジョイできるのは、多くの人たちに支えられているからだという事になる。このことを私達は決して忘れてはならないと思う。

私は陸上部員として多くの大会に出場してきた。税金を払っている人の中には、何らかの事情でスポーツをしたくてもできないような人たちもいるはずだ。自分ができないのに税金を納めてくれているのである。その人たちの気持ちを大切にしなければいけな

いと思う。

私は、来年高校を受験しさらに大学へと進学する予定であるが、私達の生活は税金によって支えられているという事をこの先ずっと強く意識していきたいと思っている。